

## 令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ワークシートやノートの点検、小テストや補習に継続して取り組んだ結果、基礎学力を高めることができた。学習の目標を明らかにすることと終末に振り返りを行うことにより、学習の達成度を実感させるとともに、次の学習への意欲を高めることにつながった。またICTの効率的な活用も良い結果を導いてくれた。
- ・教材から派生した課題について、話し合いと発表を継続して実践した結果、お互いの意見を伝え深め合う活動に対する関心・意欲がさらに高まった。多面的な見方への意識も高まった。
- ・教材について自分の意見を書き、互いに読み合うことで、適切な表現で課題に沿った内容を書く姿勢が定着し、記述問題についての正答率につながった。

#### (2) 課題

- ・話の内容を適切に聞き取る力をつけるために、発表の聞き取りメモを活用し、聞き取る際のポイントを押さえる学習を反復する。
- ・文章の内容を正確に捉え、伝えたい事柄を明確にして書くことができるよう、様々な文章に触れさせ、表現の工夫を学ばせる。
- ・漢字や文法は、今後も繰り返し復習させ、定着を図る。また、部首に関しても授業の中で折に触れて確認する。
- ・字数を指定された作文問題を苦手とする生徒が多いため、授業の中でも作文問題の解き方を学習させるとともに、作文を書く機会を増やす。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	目標値よりも、基礎・活用とも大きく上回っていた。		
第2学年	目標値よりも、基礎・活用ともに大きく上回っていた。	目標値よりも、基礎・活用ともに大きく上回っていた。	
第3学年	目標値よりも、基礎・活用ともに上回っていた。	目標値よりも、基礎・活用ともに大きく上回っていた。	目標値よりも、基礎・活用とも大きく上回っていた。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ほとんどの問題において、目標値より上回っている。ただし、「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」の正答率は目標値と同水準であった。	総じて目標値より上回っていたが、「文学的な文章の内容を読み取る」のうち、「文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている」については、目標値と同水準であった。	設定なし

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より上回っている。ただし、漢字、歴史的仮名遣いなどの問題については全国正答率と同水準であるため、第一学年の復習とさらなる定着をさせたい。	目標値より大きく上回っていた。どの問題でも概ね正答率は高い結果であったが、説明的文章の記述の問題が同水準であった。	設定なし

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全問題に関して、目標値より上回っていた。ただし、古典や言語事項については、全国正答率を下回っており、改善が必要である。	目標値より上回っていた。特に、文章表現に係る問題について、正答率が高い傾向が見られる。	設定なし

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字・語句の知識定着のため、定期考査での出題数を多めに設定する。また、定期考査とは別に、漢字の小テストを実施する。	文学的な文章の読み取りにおいて、感想の共有活動を多く取り入れる。その際に、「どういう理由からそう考えたのか」など、根拠のある意見や感想を持てるよう促していく。	単元に入る際に学習の目標を持たせ、見通しをもって授業に臨ませる。各単元において、何を学ぶのか、どこで生かせるのかをイメージさせた状態で授業を展開することにより、自分自身の力を高めていることを実感させる。そのことが学びの動機付けの主たるものとなるような指導を展開していく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字、言語知識の定着のために、授業中に新出語句、漢字があった際には辞書、ICTを使用し、調べ学習を促している。また、ノートの評価の際に調べ学習で調べたことも評価に入れることで生徒の意欲向上につなげる。	読解力向上のため、小説、説明文の構成を指導し直し、構成を意識した読解をさせる。特に教科書の接続詞に目印をつけさせるなど、視覚的にわかりやすい読解指導を行う。	自分の言葉で記述することが苦手な生徒が多いため、初読の感想等で短作文の練習を行い、苦手意識を軽減する。また、単元の学習目標を立て、その単元終了後に自己評価をつけることで振り返りを行い、自分がその単元で何を学び、どう成長したかを明確化することで学びに対する主体性を養う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典に関する基礎事項の学習を充実させる。また言語事項に関する基礎事項の学習も単元テスト等を通じて充実させる。	目的に応じて文章を読み、必要な情報を得て、自身の論理展開を考えるような授業展開を計画する。	単元に入る際に学習の目標を持たせ、見通しをもって授業に臨ませる。各単元において、何を学ぶのか、どこで生かせるのかをイメージさせた状態で授業を展開することにより、自分自身の力を高めていることを実感させる。そのことが学びの動機付けの主たるものとなるような指導を展開していく。

## 令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・地理的分野、歴史的分野ともに、復習のための小テストや家庭学習用のワークブックを導入したことにより、基礎学力を高めることができた。またICTの効率的な活用により、授業中に感じた疑問や、より深い学びに関する主体的な取り組みを行う生徒も増えてきた。
- ・グループワークを多く取り入れ、話し合いや資料の選択、より相手を説得するためにどのような手法をとればよいのかといった学習を多く取り入れた結果、多面的・多角的な思考ができるようになった。また記述に関する問題にも苦手意識が減って自分の考えを説明できるようになった。
- ・社会的事象について興味・関心を高めるため、新聞を活用した授業やニュースに対して持論を展開する「ニュースカード」を週に1回導入した結果、現在起こっている社会情勢やSDGsの重要性に対する意識が高まった。

#### (2) 課題

- ・全体的に知識・技能の点では、目標値に達しているが、歴史的分野について、資料を分析する力に課題をみることができている。今後、資料を活用した演習や文化史や二国間の貿易について考察する力の定着をはかっていきたい。また学習した内容を定着させるための方法をさらに考え実践していきたい。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	基礎・活用ともに目標値より上回った。	/	/
第2学年	基礎・活用ともに目標値より上回った。	基礎・活用ともに目標値より上回った。	/
第3学年	基礎・活用とも目標値を上回った。地理は目標値を上回ったが、歴史は目標値を下回った。	基礎・活用の目標値を下回った。	目標値より基礎は上回っていたが、活用は若干下回った。歴史分野では目標値を上回った。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より上回った。	目標値よりを上回った。	目標値より上回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より上回った。	目標値より上回った。	目標値より上回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より若干下回った。	目標値を若干下回った。	目標値より上回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
興味・関心を高めるために、学習テーマに関する良い資料を探し、ICT を効果的に活用しながら授業を進める。歴史・地理の関連を意識しながら振り返る時間を授業内に取り入れる。	グラフや地図など、複数の資料から特徴をつかみ、それを文章に的確に書く作業を取り入れていく。プレゼンテーションを行うことで考えたり、判断したりしたことについて発表する活動を行う	話し合い活動や調べ学習、発表などの授業形態を取り入れ、興味関心を高めていく。さまざまな社会の動きに目を向け、関心を高めるため、ニュースや新聞などを授業に取り入れていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストや家庭学習のノートづくりを継続的に実施し、基礎的な知識の定着をはかっていく。歴史的分野では飛鳥、平安の時代について忘れていたことが多いため、3年生になる前に復習する時間を設定する。	資料の分析や複数の資料から読み取ることができる共通点を見つけ出す協働作業を取り入れていく。社会で起こっている出来事について考えたり、発表したりする。	調べる、まとめる、発表する授業形態を実践する。話し合い活動やプレゼンテーションを通じて、自らの考えを発信できる力を身につけるようにしていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3年間の総まとめを行いながら、基礎知識を定着させる。地理や歴史と関連させながら、公民的分野の学習を進めていく。学習の際、現代社会で起こっている事象を参考にしながら、当事者意識を高め、公民的資質の育成に努める。	新聞やニュースを取り入れながら、さまざまな現代社会にある課題を多くの資料を活用して、多面的・多角的な視点から思考を深める学習を進める。	興味関心を高めるため、ニュースのテーマをうまく利用していく。話し合い学習やプレゼンテーションを通じて、社会を支える公民としての当事者意識を高め、多種多様な人々の協力を視野に入れながらよりよい社会の構築に参画できる力を育成する。

## 令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ 知識・技能の観点では全学年で全国平均、区平均と比較して平均正答率が上回った。生徒によって個人差の大きい観点であり、習熟度の低い生徒は算数の内容に戻って復習していくなど個々の課題に応じて計算の処理能力を高める必要がある。思考力・判断力・表現力の観点では問題を色々な角度から考え数学的に表現する能力を引き続き高めていきたい。主体的に学習に取り組む態度の観点では引き続き、数学的活動の中で「学び合い」を実施することで、生徒の主体性を高めていきたい。

#### (2) 課題

- ・ 3年間を通して長期休業明けテスト・単元テストを計画的に実施し、達成度を評価する。
- ・ 身近な事象や生徒が興味・関心を示す事象を取り上げ、引き続き主体的に学習に取り組む態度を高める授業を実施する。
- ・ 課題を数学的に考え、表現し、伝え合う授業を引き続き展開し、課題を数学的に解決することの重要性を認識させる。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	基礎・活用共におおむね目標値より上回ったが、基礎の3問、活用の1問で目標値を下回った。	/	/
第2学年	基礎・活用共におおむね目標値より上回ったが、活用の1問で目標値を下回った。	基礎・活用共におおむね目標値より上回ったが、「百分率」で目標値を下回った。	/
第3学年	基礎・活用共におおむね目標値より上回った。特に活用しては昨年度から大きく上回っている。	基礎・活用共におおむね目標値より上回っているが、基礎で2問、活用で2問目標値を下回っている。	基礎・活用共におおむね目標値より上回っているが、基礎で5問、活用で1問目標値を下回っている。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりおおむね上回ったが、「小数・分数の計算」で2問、「平均・場合の数」、「データの活用」で各1問、目標値を下回った。	目標値よりおおむね上回った。	今年度より主体的に取り組む態度の問題が廃止された。粘り強く学習に取り組んでいる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりおおむね上回った。	目標値よりおおむね上回ったが、「比例・反比例」で目標値を下回った。	今年度より主体的に取り組む態度の問題が廃止された。教え合い活動を通して、粘り強く学習に取り組んでいる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりおおむね上回った。図形の性質で2問、確率で1問目標値を下回った。	目標値よりおおむね上回った。図形の証明とデータの分析で目標値を下回った。	今年度より主体的に取り組む態度の問題が廃止された。教え合い活動を通して、集団活動を通して、粘り強く学習に取り組んでいる。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日々の授業で問題演習の時間を確保したり、宿題にしたりすることで、何度も問題を解き、反復することを重視する。また、個に応じた指導を目指し、生徒のつまずきをなくすようにしていきたい。	教え合いを通して、自分の考えを言語化し、説明し合うことで、自分たちで課題を解決するために必要な力の育成を目指す。	数学を少しでも「楽しい」と思えるような授業を目指していく。そのために、生徒が主体的に取り組むことができる環境を整えていきたい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業や単元テストでは、何度も問題を解き、反復していく。また、個に応じた指導を目指し、生徒のつまずきをなくすようにしていきたい。	自分の考えを言語化し、互いのよさを認めながら説明し合うことで、自分たちで課題を解決するために必要な力の育成を目指す。	数学を少しでも「楽しい」と思えるような授業を目指していく。そのために、生徒が主体的に取り組むことができる環境を整えていきたい。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日々の授業での復習や単元テストから、何度も問題を解き、反復していく。また、個に応じた指導を目指し、生徒のつまずきをなくすようにしていきたい。	自分たちで答えを導く力を身につけるために、自分の考え方を分かりやすく、他者に伝えるための数学的な表現を身につけさせていきたい。	数学を「楽しい」と思えるような授業を目指す。そのために、生徒が主体的に学習できるための環境を整えていきたい。

# 令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ICT 機器を利用したドリル学習および、発表や課題の出題を行うことで、基礎的な知識の定着を図った。また、論理的な思考力を必要とする課題を解決するような発問を授業内で行い、思考や判断を表現する機会を増やすことができた。(第2学年)
- 小中一貫教育における研修会をベースに、スムーズに小学校の既習事項から中学校への理科につながる工夫をおこなった。
- 知識の確認と定着を図るために、小プリントによる重要事項の確認を行った。また、生徒同士の協働作業を通して、知識や技能の確実な定着を行った。

### (2) 課題

- 実験と観察を大切にしたい、理科的な経験不足を補い、主体的に学習に取り組む態度を高めるような授業を実施する。小中一貫教育における研修会で協議し、小学校から中学校へのスムーズな連携を引き続き図る。
- 「短答」形式の正答率を高めるために、授業内で論理的に思考し、的確に表現するような創造的思考を養う発問を引き続き行う必要がある。
- 実験や観察の結果を考察する力を養っていくような授業を工夫する。正しい結果や知識に頼りすぎている生徒が多く、実験や観察の結果から自ら課題を見つけ、解決できるような力を養う。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	基礎、活用について共に目標値を下回った。また、物質、エネルギー、生命、地球の各領域で目標値を下回った。		
第2学年	基礎、活用、及び全ての領域において目標値を大きく上回った。特に活用については前年度に比べ、23ポイント正答率が上昇した。	基礎・活用共に概ね目標値を上回った。基礎で3問、活用で1問、目標値を下回った。	
第3学年	どの分野においても基礎の定着は見られるが、エネルギーの領域では目標値を若干下回っている。	生物、化学、物理において、基礎の定着は見られるが、活用の達成率が低い。地学は基礎・活用共に目標値を下回っている。	基礎・活用ともに目標値を上回っている問が多い。基礎で7問、活用で3問、目標値を下回っている。

### (2) 分析(観点別)

#### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「大地のつくりと変化」で3問、「物の燃え方」「月と太陽」で各2問、「植物のつくりとはたらき」「生物とたんぽぽ」「水よう液の性質」「電気の利用」で各1問、目標値を下回った。	「てこのはたらき」で2問、「水よう液の性質」「電気の利用」で各1問、目標値を下回った。選択式および短答形式の解答形式では目標値を下回ったが、記述については上回った。	今年度より、主体的に学習に取り組む態度に関する問題は廃止された。学年集団は粘り強く学習に取り組む姿勢を持ち、課題に意欲的に取り組もうとしている。

## ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
概ね全ての領域で目標値を上回ったが、生命領域で3問、粒子領域およびエネルギー領域で各1問、目標値を下回った。	概ね全ての領域で目標値を上回ったが、地球領域で1問、目標値を下回った。記述形式の解答形式では目標値を大きく上回った。	今年度より、主体的に学習に取り組む態度に関する問題は廃止された。学年集団は粘り強く学習に取り組む姿勢を持ち、課題に意欲的に取り組もうとしている。

## ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物理、化学、生物についての知識・技能は定着が見られたが、地学分野で目標値を下回った。	エネルギーの領域を中心として、目標値を下回ったものがあった。	主体的に学習に取り組む様子が見られ、協働的な学びを通して分からないこと、できなかったことをできるようにしようとする姿勢が見られる。

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全領域の基礎的な知識の定着について取り組む必要がある。ICTを活用したドリル学習および、AI トレーナーを活用した自宅学習を行い、基礎力の向上を図る。	目標値を上回った、記述については引き続き、考えさせる授業を通して表現力を向上させる。短答形式に対応するために、要点を他者に伝える力を育成する。	実験等の授業で、結果のふり返りや対話を通し、異なる結果の原因や改善方法を考察させる授業を行う。自らの考えを説明するような機会を授業内で設定する。

### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
エネルギー領域について、知識の活用を行うような授業内容に取り組む必要がある。また、実験器具の基礎的な知識の定着を図る。	緊急地震速報のしくみと初期微動および主要動の関係について思考力を育成する必要がある。	第1学年の内容に加え、予測や予報の根拠のうえで話し合い、考察させる授業を行う。自らの考えを説明するような機会を授業内で設定する。

### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
これまで通り、継続的に知識を活用することで、基礎の定着を図る。地学分野は現物を見たり、観察・実験できるものに限りがあため、ICTを活用しながらイメージをもたせるようにする。	エネルギー単元においては、自分達の生活を結びつけることを大切にしながら、課題解決のために知識・技能を活用するような指導を行う。	興味のきっかけとなる話題や観察・実験を多く取り入れる。難易度の高い課題を設置し、仲間と協同して解決していく能力を高める。基礎基本の小テストを実施し、自信につなげる。

# 令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

#### ・第1学年

基礎・活用、領域（聞くこと、読むこと、書くこと）、観点で目標値を上回る結果となった。特に、単語の意味理解やアルファベットの読み書きにおける正答率は非常に高かった。1年生の現段階での基礎的な音声知識や単語を理解する能力はあると考える。

#### ・第2学年

基礎・活用、領域（聞くこと、読むこと、書くこと）、観点で目標値を上回る結果となった。特に、様々な英文の読み取り、語の並びかえによる英作文、3文以上の英作文における正答率は目標値よりも非常に高い正答率だった。思考力や表現力が十分に身につけていると考える。

#### ・第3学年

前年度のものと比較して、達成率は0.8ポイント上回り、基礎・活用ともに目標値を大きく上回る結果となった。スピーキング活動を多く取り入れ、基礎・基本を繰り返したり、既習事項を振り返ったりする機会を多く設定していることが起因したと考える。

### (2) 課題

#### ・第1学年

場面や状況に応じて、自分が伝えたい内容を表現する力が不十分であると考え。自分が伝えたいことを話したり、書いたりする活動を通じて表現する力を高めていくことが大切だと考える。

#### ・第2学年

語形・語法・語彙の知識・理解が目標値を下回っているため、不十分だと考える。表現力や文章を読む力の土台となるような語形・語法・語彙の知識を蓄積していくことが大切だと考える。

#### ・第3学年

10項目ある問題の内容の内、場面に応じて書く英作文のみ目標値を下回った。即興で英語を使用する場面を設定し、話したことを書いたあと、エラーコレクションの時間を設ける。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

	令和7年度	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。		
第2学年	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	
第3学年	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全ての問題で目標値を上回った。	自分のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて作文をつくる問題は目標値を下回ったものの、他の設問は目標値を上回っていた。	今年度より、主体的に学習に取り組む態度に関する問題は廃止された。主体性をもって意欲的に取り組もうとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
be 動詞の過去形および一般動詞過去形の疑問文を問う問題が目標値を下回ったが、他の設問は目標値を上回っていた。	全ての問で目標値を上回った。	今年度より、主体的に学習に取り組む態度に関する問題は廃止された。活動に意欲的に取り組もうとしている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと、読むこと、書くことの領域において、全ての問題で目標値を上回っていた。	書くことの「単語の並べかえによる英作文」と「場面に応じて書く英作文」の問題で目標値を下回ったが、その他全ての領域の問題でも目標値を上回った。	今年度より、主体的に学習に取り組む態度に関する問題は廃止された。英語に対する苦手意識が低く、積極的に英語を話そうとしている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き基礎基本の定着を図ると共に、一部苦手な生徒への個別の支援を行う。	対話や発表等の原稿作成を通して、自分の考えを書いたり、発表したりする力を身につけさせる。	引き続き主体的に取り組めるように、話す活動と書く活動をバランスよく取り入れ、生徒が主体的に活動する場面の多い授業を心掛ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語形・語法の知識・理解を定着させる活動を継続的に行い、新出事項は既習内容と関連させ指導し復習できる機会をつくる。	教科書や副教材を用い読解力を高めるとともに、教科書等の題材について自分の考えをふとまった英文で作成する力を育む。	学習に主体的にかつ粘り強く取り組める活動や内容を取り入れる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き、基礎・基本の定着を図る。	即興で英語を使用する場面を設定し、話したことを書いたあと、エラーコレクションの時間を設ける。	Forms のアンケートなどを通して、学期の授業について生徒からフィードバックを得て、生徒が興味関心を持って取り組める

		活動を授業に取り入れる。
--	--	--------------

## 令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・音楽的理論や楽典的知識の理解度は高く、さらに学ぼうとする姿勢がある。
- ・実技試験での達成度が高い。試験を設定することで意欲が高まった。
- ・リズム感や音感を磨くことに成功した。

#### (2) 課題

- ・基礎的な音楽記号や音符休符に苦手意識があること。
- ・指示待ちの生徒がいること。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

実施なしのため省略

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・変声期に入った生徒に配慮した指導を心がける。一人でも多く自信をもって歌唱表現できる力をつけさせる。</li> <li>・リズム読みの練習を充実させ、読譜力をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲に対するイメージを持たせ、ICT を適宜使用しながらクラス全体で目標を共有し、明るく素直な歌唱を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの意欲を引き出す課題の設定。</li> <li>・目標をもち、全体で歌唱することを定着させる。</li> </ul>

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>表現力を伸ばしていく。</li> <li>豊かな響きを作るために自らもっている音色に気づかせ、伸ばしていく発声法に留意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲に対するイメージを持たせ、ICT を適宜使用しながらクラス全体で目標を共有し、深い学びにつなげる。</li> <li>楽器の音色や役割、曲の構成など関連づけて指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの意欲を引き出す課題の設定を行う。</li> <li>・目標をもち、歌唱することへの楽しさを実感させ、音楽への関心を高めさせる。</li> </ul>

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲の構成や各パートの役割等も考えながら、全体の響きを味わって表現出来る力を養わせる。</li> <li>・世界の多様な音楽の理解と日本の音楽についての理解を深め、優れた演奏を多く聴く機会をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲に対するイメージを持たせ、ICT を適宜使用しながらクラス全体で目標を共有し、深い学びにつなげる。</li> <li>・楽曲に対するイメージを表現するために、具体的な方法を体現させる。アプローチの仕方についても工夫させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何のために」という目的意識と、課題ごとの目標を明確にする。</li> <li>・最高学年として学校全体の歌声をリードする自覚をもたせ、主体的、計画的な取り組みをさせる。</li> </ul>

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・技術・家庭ともに体験的な実習授業を取り入れ、基本的技能を体験できる機会を設けている。
- ・道具や材料の管理、電源・電圧を考慮しながらの器具の配置に努めることで安心・安全に活動ができた。
- ・実習活動は毎時間、記録することで時間や完成度を意識しながら取り組む事ができた。
- ・紙面や ICT の活用など様々な方法で解説をし、その上で実習活動をすることで、必要な情報を提供し工夫しやすい環境を整えることで、多くの生徒が意欲的に製作に取り組むことができた。
- ・今までの小中学校で学習した技術を新しい教材や実習に活かし、技能の維持や向上ができていく。
- ・生徒一人一人が自分の考えをまとめ、発表や班活動で意見の共有をすることで視野を広げることができたり他者の考えを尊重する機会を持ったりすることができた。

(2) 課題

- ・ものづくりに興味関心を示し取り組む生徒も多いが、基礎・基本的な知識や技能の習得が苦手な生徒も多い。
- ・限られた時間の中で標準製作時間に沿ってすすめることが苦手な生徒が多い。
- ・説明書の図を見ても方向や裏表を理解することが苦手な生徒が多い。
- ・実生活につながる基本的技能を経験する場が少ないため引き続き、実践活動の時間を十分に確保する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

実施なしのため省略

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識や技能を理解させる。実践活動を通して知識を深める。</li> <li>・ICT 機器を使用し、視覚的に分かりやすい授業の展開を実践していく。</li> <li>・実技指導が必要な実践活動も classroom に動画を配</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実用性の検討や実生活について課題解決に向けて自分の考えをまとめ他者の考えを聞くことで視野を広げていく。</li> <li>・実習で正しく作品を作るため、使用する道具や材料の知識を築いたうえで必要に応じた道具や方法を選択できるよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間のまとめの時間に記録や実生活への活かし方について 50 文字程度の作文を習慣化する。</li> <li>・授業の終わりまでに主体的に自分の考えをまとめることができる。</li> <li>・班活動を通して、協力しながら</li> </ul>

<p>信し活用することで理解を深める。</p>	<p>にしていく。 学習内容が自身の生活にどのように活かせるか班で共有したり発表したりする。</p>	<p>ら意見交換や実習をすすめることができる。 ・作品を完成して提出することの大切さを理解させる。 ・完成した作品を家庭で使用することで、作る喜びや達成感から、次の領域の主体的に学ぶ力に反映させていく。</p>
-------------------------	--	---

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・今まで習得した知識や技能を活用しながら、製作に取り組む。 ・実技指導が必要な実践活動も classroom に動画を配信し活用することで理解を深める。 ・技術を伸ばすために必要に応じて反復練習の時間を設定したり、同じ技術を繰り返し使う作り方で製作したりしていく。 ・今までの知識を深め技能を磨くことで生活の質が向上することを理解する。</p>	<p>・実用性の検討や実生活について課題解決に向けて自分の考えをまとめ、他者の考えを聞くことで視野を広げていく。 ・製作に向けて構想を書かせ、計画に沿って実現できるように工夫しながら計画を立てたり、進捗に合わせて修正したり自己で完成までの管理ができる。 ・今までの学習から技術・家庭の様々な領域を横断して活かすことで生活の質の向上をめざせるようになる。</p>	<p>・実生活をよりよくするために、技術の役割や衣生活・住生活について考えさせる。 ・授業の終わりまでに主体的に自分の考えをまとめることができる。必要に応じて提出することができる。 ・班活動を通して、協力しながら意見交換や実習をすすめることができる。 ・作品を完成して提出することの大切さを理解させる。 ・完成した作品を家庭で使用することで、作る喜びや達成感から、次の領域の主体的に学ぶ力に反映させていく。</p>

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ICT 機器を活用して、より実用的な理解を深める。 実技指導が必要な実践活動も classroom に動画を配信し活用することで理解を深める。 ・基礎基本を理解させ、技術</p>	<p>・情報を活用し、工夫して応用的に活用できるようにする。 ・分からないことをすぐに質問するのではなく、説明書を読んだり、お手本の動画を視聴したり考える機会を与える。 ・安全で適切に実習をするため</p>	<p>・より豊かな生活を送るために、今まで学習したことを活かせる場面を考えさせる。 ・毎時間のまとめの時間に記録や実生活への活かし方について80文字程度の作文を習慣化する。</p>

<p>の向上や、製作方法や手段に応用力がつくようにつなげていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの知識を深め技能を磨くことで生活の質の向上に繋げる。</li> </ul>	<p>に問題の発見や課題の設定、実習計画、実習過程や結果の評価ができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの様々な体験学習を通し、技術・家庭の色々な領域を横断し活かすことで生活の質の向上に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを作品作りに生かせる場面を取り入れていく。</li> <li>・班活動を通して、協力しながら意見交換や実習をすすめることができる。</li> <li>・作品を完成して提出することの大切さを理解させる。</li> </ul>
---	---	--

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業内での大きな怪我なく、安全第一に取り組むことができた。
- ・陸上競技において ICT 機器を活用した動作分析を用い、客観的に振り返り思考する力の素地を作ることができた。
- ・授業の中で、ペアやチームでの活動を増やした。生徒同士が同じ目標を見据え活動できる場を作れた。その中で試行錯誤を重ねて、技能の伸長を感じる事が、思考力の向上に寄与したと考える。

(2) 課題

- ・水泳がWBGTの結果、見学者の対応について。
- ・デジタルでの提出物（オクリンクプラス）に関して、教員側は管理が容易となる。ただ、生徒は紙での提出率が高く、意識づけをより強調していく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 実施なしのため省略

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の特性やルールを理解し、イメージを持って活動させる。基礎技能を身につけスモールステップを設けて段階を追って力をつけていく。	自他の安全に留意し、自己の課題を発見した上で、活動方法を考えられるように学習カードを有効に使わせる。	種目ごとに安全に注意しながら意欲的に取り組めるように場の工夫を行う。仲間と共に学習する機会を大事にし、男女混合を含むペア・グループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の特性やルールを強調し、ポイントを整理しイメージを持って活動させる。基礎技能を身につけ、考えたことを行動に移していく力をつけていく。	自他の安全に留意し、自己の課題を発見した上で、より効果的な活動方法を考え実践できるように学習カードを有効に使用し、目標をもたせる。	種目ごとに安全に注意しながら、ねらいや課題を明確にし、積極的に取り組めるようにする。仲間との関わりを大事にし、男女混合を含むペア・グループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の特性やルールを強調し、ポイントを整理しイメージをもって活動させる。技能を身につけ、考えたことを行動に移していく力をつけていく。その場に応じて応用できるようにする。	自他の安全に留意し、自己及び仲間の課題を発見した上で仲間に伝え、より効果的な活動方法を考え実践できるように学習カードを有効に使用し、目標を持たせる。	種目ごとに安全に注意しながら、ねらいや課題を明確にし、積極的に取り組めるようにする。仲間との関わりを大事にし、男女混合を含むペア・グループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。

# 令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ICT 機器を利用したドリル学習および、発表や課題の出題を行うことで、基礎的な知識の定着を図った。また、論理的な思考力を必要とする課題を解決するような発問を授業内で行い、思考や判断を表現する機会を増やすことができた。(第2学年)
- 小中一貫教育における研修会をベースに、スムーズに小学校の既習事項から中学校への理科につながる工夫をおこなった。
- 知識の確認と定着を図るために、小プリントによる重要事項の確認を行った。また、生徒同士の協働作業を通して、知識や技能の確実な定着を行った。

### (2) 課題

- 実験と観察を大切にしたい、理科的な経験不足を補い、主体的に学習に取り組む態度を高めるような授業を実施する。小中一貫教育における研修会で協議し、小学校から中学校へのスムーズな連携を引き続き図る。
- 「短答」形式の正答率を高めるために、授業内で論理的に思考し、的確に表現するような創造的思考を養う発問を引き続き行う必要がある。
- 実験や観察の結果を考察する力を養っていくような授業を工夫する。正しい結果や知識に頼りすぎている生徒が多く、実験や観察の結果から自ら課題を見つけ、解決できるような力を養う。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	基礎、活用について共に目標値を下回った。また、物質、エネルギー、生命、地球の各領域で目標値を下回った。		
第2学年	基礎、活用、及び全ての領域において目標値を大きく上回った。特に活用については前年度に比べ、23ポイント正答率が上昇した。	基礎・活用共に概ね目標値を上回った。基礎で3問、活用で1問、目標値を下回った。	
第3学年	どの分野においても基礎の定着は見られるが、エネルギーの領域では目標値を若干下回っている。	生物、化学、物理において、基礎の定着は見られるが、活用の達成率が低い。地学は基礎・活用共に目標値を下回っている。	基礎・活用ともに目標値を上回っている問が多い。基礎で7問、活用で3問、目標値を下回っている。

### (2) 分析(観点別)

#### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「大地のつくりと変化」で3問、「物の燃え方」「月と太陽」で各2問、「植物のつくりとはたらき」「生物とかんきょう」「水よう液の性質」「電気の利用」で各1問、目標値を下回った。	「てこのはたらき」で2問、「水よう液の性質」「電気の利用」で各1問、目標値を下回った。選択式および短答形式の解答形式では目標値を下回ったが、記述については上回った。	今年度より、主体的に学習に取り組む態度に関する問題は廃止された。学年集団は粘り強く学習に取り組む姿勢を持ち、課題に意欲的に取り組もうとしている。

## ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
概ね全ての領域で目標値を上回ったが、生命領域で3問、粒子領域およびエネルギー領域で各1問、目標値を下回った。	概ね全ての領域で目標値を上回ったが、地球領域で1問、目標値を下回った。記述形式の解答形式では目標値を大きく上回った。	今年度より、主体的に学習に取り組む態度に関する問題は廃止された。学年集団は粘り強く学習に取り組む姿勢を持ち、課題に意欲的に取り組もうとしている。

## ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物理、化学、生物についての知識・技能は定着が見られたが、地学分野で目標値を下回った。	エネルギーの領域を中心として、目標値を下回ったものがあった。	主体的に学習に取り組む様子が見られ、協働的な学びを通して分からないこと、できなかったことをできるようにしようとする姿勢が見られる。

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全領域の基礎的な知識の定着について取り組む必要がある。ICTを活用したドリル学習および、AI トレーナーを活用した自宅学習を行い、基礎力の向上を図る。	目標値を上回った、記述については引き続き、考えさせる授業を通して表現力を向上させる。短答形式に対応するために、要点を他者に伝える力を育成する。	実験等の授業で、結果のふり返りや対話を通し、異なる結果の原因や改善方法を考察させる授業を行う。自らの考えを説明するような機会を授業内で設定する。

### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
エネルギー領域について、知識の活用を行うような授業内容に取り組む必要がある。また、実験器具の基礎的な知識の定着を図る。	緊急地震速報のしくみと初期微動および主要動の関係について思考力を育成する必要がある。	第1学年の内容に加え、予測や予報の根拠のうえで話し合い、考察させる授業を行う。自らの考えを説明するような機会を授業内で設定する。

### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
これまで通り、継続的に知識を活用することで、基礎の定着を図る。地学分野は現物を見たり、観察・実験できるものに限りがあるため、ICTを活用しながらイメージをもたせるようにする。	エネルギー単元においては、自分達の生活を結びつけることを大切にしながら、課題解決のために知識・技能を活用するような指導を行う。	興味のきっかけとなる話題や観察・実験を多く取り入れる。難易度の高い課題を設置し、仲間と協同して解決していく能力を高める。基礎基本の小テストを実施し、自信につなげる。

## 令和7年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・生徒に幅広い美術活動を体験させることができた。
- ・新しい題材を取り入れることができた。

#### (2) 課題

- ・授業内で作品を完成させられない生徒がいるため、課題の分量や質を見直す必要がある。
- ・新しく取り入れた題材にデメリットがあったため、題材そのものを見直す。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

実施なしのため省略

### 3 授業改善のポイント (観点別)

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な知識・技能を身に付けさせる。美術文化に親しませ、知識を身に付けさせる。スライドの内容を工夫する。	作品制作の条件を理解させ、豊かな表現力を身に付けさせる。課題の分量、質を見直す。(完成扱いの最低ラインを下げる。)	授業規律を守り、集中して制作に取り組めるようにする。作品提出の期限を守る大切さを理解させる。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な知識・技能を身に付けさせる。美術文化に更に興味を抱かせ、知識を身に付けさせる。スライドの内容を工夫する。	材料の特徴を生かし、豊かな表現ができるようにする。課題の分量、質を見直す。(1年間で2つの題材に取り組む。)	授業内で作品を完成させられるよう指導する。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な知識・技能を深め、より専門性の高い分野に取り組めるようにする。美術文化への理解を深め、大切にする気持ちを育む。	社会の中の美術と関連する題材を用いることで、社会との関りを考えながら表現できるようにする。課題の分量、質を見直す。(1年間で2つの題材に取り組む。)	授業内で作品を完成させられるよう指導する。